

科目	理学療法評価診断学実習	担当	太田 進	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	1単位

【授業目標・到達目標】

理学療法評価診断学実習は、理学療法評価診断学Ⅰ・Ⅱ・理学療法評価診断学演習で修得した知識および技術をさらに確実なものとするよう実習形式で行う。講義の前半は骨関節障害、後半は中枢神経障害(脳血管疾患)とし、理学療法に必要な情報収集、各種理学療法評価、問題点の抽出からプログラムの立案までの一連の流れについて修得する。

受講者は、本実習を通して、臨床実習や理学療法の臨床場面に即した問診、検査測定、問題点の抽出、プログラム立案の方法を具体的な症例提示を通し、その知識の整理と実技が行えることを到達目標とする。

【履修注意】

講義のほとんどが実習形式で行われるため、実技の可能な服装で参加すること。

【評価方法】

出席状況、授業態度、定期試験などから総合的に評価する(欠席が1/3を超える学生は受験不可)。

【試験について】

試験については、筆記試験を実施する。

再試験対象者の条件：本試験で60点未満を再試験の対象とするが、40点に満たない場合はその対象としない。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針です。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要です。

理学療法評価診断学Ⅰ・Ⅱおよび演習、神経筋障害理学療法学、運動器障害理学療法学で修得した知識を十分に予習・復習して講義に参加すること。

【教科書】

資料を配布するため、特に指定しない。

【参考書】

運動器障害理学療法学ⅠおよびⅡ 著者:石川 朗 出版社:中山書店

整形外科術後理学療法プログラム 著者:島田洋一(編) 出版社:メジカルビュー社

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	評価診断学総論	評価目的、障害と評価、問診の実際
2	骨関節障害の評価1	問診の進め方、確認テスト(OSCE形式)とそのフィードバック
3	骨関節障害の評価2	問題点抽出と目標設定、理学療法プログラム立案、治療(変形性関節症、人工膝関節全置換術)
4	骨関節障害の評価3	問題点抽出と目標設定、理学療法プログラム立案、治療(歩行を中心に)(変形性膝関節症、人工膝関節全置換術)
5	骨関節障害の評価4	問題点抽出と目標設定、理学療法プログラム立案、治療(大腿骨近位部骨折1)
6	骨関節障害の評価5	問題点抽出と目標設定、理学療法プログラム立案、治療(歩行を中心に)(大腿骨近位部骨折2)
7	骨関節障害の評価6	骨関節疾患を想定した症例の基本的検査の確認テスト(OSCE形式)とそのフィードバック
8	評価診断学まとめ	症例を想定した検査測定の復習、まとめ
9		
10		
11		
12		
13		
14		
15		
16		